

# 第13回京都府肝炎対策協議会 開催概要

## 1 日時

令和3年11月30日（火）午後6時から午後7時まで

## 2 場所

オンライン（zoom）

## 3 出席者（所属団体順）

肝炎対策協議会委員 12名

高井 淳	京都大学大学院医学研究科 助教（消化器内科学）
山口 寛二	京都府立医科大学大学院医学研究科 講師（消化器内科学）
友沢 明德	一般社団法人京都府薬剤師会 常務理事
長谷川 泰子	公益社団法人京都府看護協会 第一副会長
中島 智樹	済生会京都府病院 診療部長・感染制御部長 （京都府感染症対策委員会 肝炎部会長）
香川 恵造	一般社団法人京都府病院協会 監事
富士原 正人	一般社団法人京都私立病院協会 副会長
田中 征一郎	京都肝炎友の会 世話人
今崎 匡裕	京都市保健福祉局医療衛生推進室医療衛生企画課 感染症企画担当課長
八田 由紀	南丹市保健福祉部保健医療課 課長補佐
畑中 博之	井手町保健センター 所長、井手町地域包括支援センター 所長
時田 和彦	京都府南丹保健所長

京都府医師会理事 禹委員については聴講のみ

ほか 傍聴者 4名

## 4 議題

- 令和2年度及び令和3年度の京都府の肝炎対策について
- 京都府肝炎コーディネーター制度について
- 肝炎ウイルス検査について

## 5 内容

### <概要>

以下について意見が出された。

- ・ 肝炎コーディネーターの所属施設の公表について
- ・ 令和3年度の肝炎コーディネーター養成研修について
- ・ イベント会場での肝炎ウイルス検査実施について

## (1) 挨拶（中川保健医療対策監）

## (2) 協議事項及び報告事項

互選により、済生会京都府病院診療部長・感染制御部長（京都府感染症対策委員会肝炎部会長）の中島委員を座長とし、協議事項及び報告事項について事務局から資料に基づき説明。

### 協議事項についての意見・質疑等

#### <京都府肝炎コーディネーターについて>

(委員意見) コーディネーター研修について、色々と工夫されている。オンライン・オンデマンドでの開催ということで、遠方からも参加しやすい等のメリットもあり、時代の流れに即した開催方法であると感じる。

(委員意見) 京都府に限った話ではないが、養成したコーディネーターをうまく活かしている都道府県がない。養成して数を増やすのはいいが、どう肝炎患者に対して還元していくのかが問題。

京都府では、肝炎コーディネーターが所属する施設名を公表しているが、施設内の誰が肝炎コーディネーターかわからない。

(事務局) → コーディネーターの存在が見える様に、取組みを検討したい。

(委員意見) → 肝炎患者は高齢であることも多く、ホームページに掲載されても見られない。それ以外の方法を考えていただけるとありがたい。

(事務局) → 例えば、京都府肝炎情報ガイドへの掲載等、できることを考えたい。

(委員意見) 今年度は行政職員、患者会、薬剤師、看護師と対象を大きく広げているが、講義はそれぞれ対象者に特化した内容で動画を作成するのか。

(事務局) → 京都府肝炎コーディネーターは医療担当と啓発担当の2つに分かれており、医療担当（看護師・薬剤師）と啓発担当（行政職員、患者会）の2つで講義内容は分けて作成したいと考えている。

(委員意見) → 啓発担当は市民公開講座のようなイメージの講義、医療担当はもう少し専門用語を交えた講義で作分けるということで承知した。

(委員意見) 令和3年度の計画を提示されているが、具体的な開催はいつ頃を想定しているか。

(事務局) → 1月～2月頃の開催を想定している。

(委員意見) → 平成30年度も急な募集で参加者が集まりにくかったこともあり、今年度もこれから計画されるとのことであることから、なるべく早急に進行していただけるとありがたい。

(事務局) → ご指摘のとおり、周知期間をできるだけ確保できるよう、具体的な進行については追って相談させていただく。

- (委員意見) 参考資料にある、「京都府肝炎コーディネーター養成研修標準プログラム」に基づき研修内容を決定されるのか。
- (事務局) → 医療担当も啓発担当もプログラムの構成は同じで、内容については先ほどの高井委員の質問にあったように、医療担当のほうが専門性の高いものになる。
- (委員意見) 医師・看護師・多職種と一体となって肝炎対策を進められるよう、肝疾患専門医療機関に務める看護師に、肝炎コーディネーター研修を受講されるよう、特に周知に注力されたい。
- (事務局) → 承知した。
- (委員意見) 肝炎コーディネーターの認定を受けられた方が、何かできることはないかと患者会を尋ねてくれたことがある。折角取られた資格をどこでどう活かすか、もう少し鮮明にしてほしい。
- また、コーディネーター同士の横の連携をしっかりとれる仕組みの構築を希望する。京都市の障害者相談員のように、個人の連絡先まで公開したほうが、相談件数は増えるのではないかと。

#### <肝炎ウイルス検査について>

- (委員意見) 肝炎ウイルス検査はいかに採血を受けていただくということで、多くの方の目にとまることのできるよう、工夫されていると感じた。
- (委員意見) 弁護士と合同で学生等に向けて患者講義を担当させていただいている。その中で、「肝炎ウイルス検査を受けたことがあるか？」と質問すると、非医療系の学生はほとんど手が挙がらない。まずは自分が検査を受けること、そして受けた後は周りの人に肝炎ウイルス検査をお勧めしてもらうことを話すようにしている。
- (委員意見) → まさに、その草の根運動のような地道な取組みが重要であると感じる。
- (委員意見) 啓発だけではなかなか検査まで結びつかない現状があり、今回紹介のあった京都府の取組みは興味深いものであった。
- イベント会場での実施の事例として、奈良マラソンで肝炎ウイルス検査を実施した例を見聞きした。
- (委員意見) → イベント会場での検査実施については、過去の京都府肝炎対策協議会でも度々話題が挙がっている。他府県では複数事例があるのだから、京都府もできるはず。

### (3) 閉会